

2008 - IV - 28

経済開発過程における環境資源保全政策の形成

寺尾 忠能 編

2009年3月

独立行政法人日本貿易振興機構
アジア経済研究所

調査研究報告書

新領域研究センター 2008 - IV - 28

「経済開発過程における環境資源保全政策の形成」研究会

調査研究報告書
新領域研究センター 2008 - IV - 28
「経済開発過程における環境資源保全政策の形成」研究会

2009年3月30日発行
発行所 独立行政法人日本貿易振興機構
アジア経済研究所
〒261-8545 千葉県千葉市美浜区若葉3-2-2
電話 043-299-9500

無断複写・複製・転載などを禁じます。

まえがき

本報告書は、2008 年度、アジア経済研究所において実施した「経済開発過程における環境資源保全政策の形成」研究会の成果の一部に基づくものである。

多くの発展途上国において様々な経済活動や社会生活の基盤となっている自然資源の管理に関する政府の政策と社会的取り組みについて、社会科学的視点から分析を行い、長期的な視点から見た資源の効率的な活用と公正な配分をもたらす制度・社会組織のあり方を探るために、研究会を組織した。また、自然物が社会経済制度を通じて資源として生成される過程を分析することによって、開発研究と環境問題研究とをつなぐ「開発と環境」という分野をとらえ直す可能性を模索している。

1970 年代の石油危機以来、資源問題は主として鉱物資源、特に化石燃料の安定的な供給の問題として考察されてきた。地球環境問題が国際社会の重要な課題として登場してからは、エネルギー資源消費によって発生する二酸化炭素の抑制も重要な研究課題となった。一方、農地、森林資源、漁業資源など移動できないローカルな資源は、古くから経済活動によって利用されており、特に発展途上国においてはそれらの資源の利用に直接に依存して生活している人々が現在でも多数存在している。

発展途上国が長期的に安定的な経済発展を目指すためには、様々な資源を適切に効率的に利用することが不可欠である。また地球規模の環境制約、資源制約の克服のためにも、発展途上国における資源の有効な利用が求められている。発展途上国におけるエネルギー、森林、土地、水、漁場など各種資源の有効利用について、環境研究を念頭に再構成する必要がある。本研究会では、発展途上国における様々な資源の管理に関する基礎研究を行ない、発展途上国における資源管理に関わる問題群について、開発途上国の社会経済制度への影響等を検討するための分析枠組みとしての「資源論」の可能性についても検討した。

本報告書では、「経済開発過程における環境資源保全政策の形成」研究会の成果の一部である、研究会に参加した各委員が執筆した論文に加えて、第二次世界大戦後の復興期に経済安定本部の中に設置され、日本の資源政策の立案に重要な役割を果たした、資源調査会の事務局に 1948 年から 56 年まで勤務された石井素介氏（明治大学名誉教授）に、当時の事務局とその周辺の議論と関係者の様子を回想した論文をご執筆いただいた。日本における「資源論」の構想についての回想は、今日の発展途上国での開発過程における資源の利用に関する議論に対して示唆に富み、貴重な証言である。石井氏には、本研究会の準備段階で行った 2007 年度基礎理論研究会「発展途上国の資源管理問題」研究会においても、講師として同様の内容について講演していただいた。貴重なお時間をいただき、ご教示いただいたことをここに記して感謝したい。

2009 年 3 月

編者

目 次

第 1 章 中国淮河流域における水資源保護行政の形成

- 1949 ~ 1992 年 - ······

大塚 健司

第 2 章 資源・エネルギー政策と環境政策との相互作用

- 日本の高度経済成長期の硫黄酸化物対策と燃料転換 - ······

寺尾 忠能

第 3 章 資源利用の利害調整としての水質保全政策

水俣病事件と水質二法を中心に ······

寺尾 忠能

第 4 章 アジア国際協力の国内的起源

日本資源論と対外関係の相互作用 - ······

佐藤 仁

第 5 章 戦後初期の資源調査会における 資源論 確立への模索

当時の一事務局スタッフの眼からみた回想 - ······

石井 素介

執筆者一覧（執筆順）

大塚 健司	アジア経済研究所新領域研究センター
寺尾 忠能	アジア経済研究所新領域研究センター
佐藤 仁	東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授
石井 素介	明治大学名誉教授